

1. 評価結果概要表

作成日 平成 20年 10月 20日

【評価実施概要】

事業所番号	2070300591		
法人名	社会福祉法人敬老園		
事業所名	グループホームぼうやま敬老園		
所在地	長野県上田市中央5-6-23 (電 話) 0268-25-1165		
評価機関名	コスモプランニング有限会社		
所在地	長野市松岡1丁目35番5号		
訪問調査日	平成20年10月10日	評価確定日	平成20年11月6日

【情報提供票より】（平成20年 9月28日事業所記入）

（1）組織概要

開設年月日	平成 15年 4月 1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	6 人	常勤 6人, 非常勤 0 人, 常勤換算 6人	

（2）建物概要

建物構造	木造 造り		
	2 階建ての	1 階部分	

（3）利用料金等（介護保険自己負担分を除く）

家賃（平均月額）	28,000円～32,000円	その他の経費（月額）	20,000 円
敷 金	有（ 円）	無	
保証金の有無 （入居一時金含む）	有（ 円） 無	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	300 円	昼食 500 円
	夕食	400 円	おやつ 円
	または1日当たり 円		

（4）利用者の概要（平成20年 9月28日現在）

利用者人数	9 名	男性 0	女性 9 名
要介護 1	1	要介護 2	2
要介護 3	3	要介護 4	3
要介護 5	0	要支援 2	0
年齢	平均 84.1 歳	最低 79 歳	最高 91 歳

（5）協力医療機関

協力医療機関名	・柳澤病院 ・小泉クリニック ・佐藤歯科医院
---------	------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

天正11(1583)年真田昌幸が上田城構築の地固め式の際に、常田村、房山村（ともに現在の上田市）の獅子踊りを改めて作り直したものが現在、上田獅子として祇園祭に踊られるようになり、常田の獅子が雄獅子、房山の獅子が雌獅子と言われている。旧町名にもある由緒ある房山の地名から「ぼうやま」と名づけられたホームは、地域に密着していた旧医院を改修したもので、随所に狭い空間を補完した工夫が見られる。入居者の憩いの場となっている居間兼食堂からは今を盛りと咲く秋明菊を初め、季節を感じさせる樹木・草花が配置された和風の庭が望める。街中の喧騒は意外と感じられず、南面のガラス引き戸からは初秋の明るい日差しが入りこんおり、入居者も穏やかに過ごしていた。入居時のセンター方式による詳細な情報収集や介護日誌に記入された昼夜の気づき等で職員は入居者個々への理解を深めている。入居者から地域の方言やしきたりを教えていただいたり、季節の野菜の育て方、調理の仕方など生活面に役立つ情報を得ている。同じ法人で運営する母体とも言うべき複合施設が近く、職員も2名の男性職員を含め7～8年の中堅どころの経験者が多い等、入居者が安心し家族からも信頼される体制がとられている。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況（関連項目：外部4） 地域とのつきあいについては地元自治会から避難訓練への協力を得るなど徐々に広がりを見せている。自己評価についても自分の係りのある項目を掘り下げる等前向きに取組んでいる。家族参加の行事を開催するなど運営に関する家族等意見の反映も一步一步進んでいる。介護暦7～8年の職員を配置しており、サービスの安定化も図られている。ターミナルケアについては本年度実際に取組んだ経緯がある。
	今回の自己評価に対する取り組み状況（関連項目：外部4） 自己評価については毎月10日前後に行われるサービス会議で検討がされた。また、職員が個々に係る項目については掘り下げて自己評価を行っている。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み（関連項目：外部4, 5, 6） 利用者代表、家族代表、地区代表、地域包括支援センター職員、市高齢者介護課職員、ホーム管理者による会議が奇数月・2ヶ月に1回開催されている。内容は外部評価の結果報告、活動状況報告・予定、質疑応答等で双方向の内容となっている。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映（関連項目：外部7, 8） 年2回、家族参加の行事を実施しており、本年度は法人本部のある建物に併設されているレストランで会食を行い、貴重な意見が収集できた。家族の来訪時には声がけし、いつでも相談に応じている。事業所の第三者委員や公的機関、ホームの相談窓口が重要事項説明書に明記されている。玄関にはご意見箱があり記入用紙も備え付けられている。
重点項目④	日常生活における地域との連携（関連項目：外部3） 近所の方との日常の挨拶、果物・野菜のおすそ分け、年2回の非難訓練への自治会役員の参加等、つながりが広がっている。毎週水曜日に傾聴ボランティア、金曜日には読み聞かせボランティアの来訪がある。福祉学科のある市内の高校の実習の場として、また、中学生、高校生のサマーチャレンジの場として受け入れをしている。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	ホームの「明るく楽しく元気良く」、「その人らしく輝いて」、「優しい心で」の三つの理念が法人理念とともに玄関に掲げられており、それぞれわかり易く更にコメントがつけられている。	○	既に日常の運営の中で地域とのふれあいの場面も多数窺うことができる。今後検討する機会があれば、「地域住民との交流」についても内容に付け加えていただくことを望みます。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者と職員は毎月のサービス会議他、ことある毎に確認している。入居時には家族にも説明がされている。職員の入居者への言葉かけや接する態度もやさしく、さりげなく実践している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	近所の方との日常の挨拶、果物・野菜のおすそ分け、年2回の非難訓練への自治会役員の参加等つながりが広がっている。毎週水曜日に傾聴ボランティア、金曜日には読み聞かせボランティアの来訪がある。福祉学科のある市内の高校の実習の場として、また、中学生、高校生のサマーチャレンジの場として受け入れをしている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価については毎月10日前後に行われるサービス会議で検討がされた。また、職員が個々に係る項目については掘り下げて自己評価を行っている。		

グループホームぼうやま敬老園

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者代表、家族代表、地区代表、地域包括支援センター職員、市高齢者介護課職員、ホーム管理者による会議が奇数月・2ヶ月に1回開催されている。内容は外部評価の結果報告、活動状況報告・予定、質疑応答等で双方方向の内容となっている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	法人本部が市内にあることから本部から接触する機会も多い。短期ではあるが、県職員の研修の場としても受け入れがされている。市の介護相談員の訪問も3～4ヶ月に1回行われている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	4ヶ月に一度、日常の暮らしぶりを写真とともに綴ったホーム便りが発行されている。基本的には金銭の預かりはしていないので、日用品他の出費は立替え、月末清算し、レシートをつけ利用料と一緒に請求がされている。年2回、家族参加の行事を実施しており、本年度は法人本部のある建物に併設されているレストランで会食を行った。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の来訪時には声がけし、いつでも相談に応じている。事業所の第三者委員や公的機関、ホームの相談窓口が重要事項説明書に明記されている。玄関にはご意見箱があり記入用紙も備え付けられている。年2回、家族参加の行事でも貴重な意見が聞ける。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	各入居者毎の担当者は決めてはあるが、全職員がどの入居者にも対応できることを前提として支援に当たっている。職員の異動は極力抑えているが、法人の異動等でやむをえない場合は引継ぎ期間を十分に取リスムーズに移行できるようにしている。新任の職員についても職場内実践研修(OJT)を通して指導し、修得させることによって即戦力となるように育成している。		

グループホームぼうやま敬老園

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修は法人の復命他三段階に分けられているが、ホームとして本年度職員一人当たり2回は各種研修会に参加するということが決められており、実行に移されている。職員は、法人のサービス向上委員会等の委員会に必ず参加し刺激を受けている。法人のブロック別の勉強会も実施されている。感染症マニュアルの読み合わせなど必要に応じて毎月のサービス会議で意識を高めている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣の2グループホームと相互交流をしている。はじめは管理者同士が他ホームへ訪問していたが、以後、職員同士の交換研修等を実施予定であり、互いに出来るところから取り入れ、サービスの質の向上を目指している。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居希望者・家族は事前にホームを見学し、申し込みをしている。現在待機者は数十名いるが、居室が「空き」状態になった場合、管理者・計画作成担当者が担当ケアマネージャーと相談し緊急度のある方を優先し決定している。入居時のセンター方式による詳細な情報収集や介護日誌に記入された昼夜の気づき等で職員は入居者個々への理解を深めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者から地域の方言やしきたりを教えていただいたり、季節の野菜の育て方、調理の仕方など生活面に役立つ情報を得ている。職員も7～8年の中堅どころの経験者を配し、男性の職員も2名と、入居者が安心し、家族からも信頼される体制づくりがされている。		

グループホームぼうやま敬老園

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は理念通り明るい声がけに徹しており、入居者の言動や表情から思いを把握するようにしている。入居時のセンター方式による各入居者の詳細な情報収集により生活暦等は把握されている。毎日の介護日誌に細かく記入された入居後の昼夜の言動等からも意向を把握・共有しようとしていることが窺える。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	一ヶ月に一回、10日前後の夜、夜勤者を除く全職員によるサービ会議で入居者一人ずつの計画を検討している。支援計画は画一的でなく、個々の入居者に合ったより具体的なもので、普段の生活に直結している内容であった。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	家族や訪問看護師等、関係者と相談しながら、三ヶ月に1回定期的に見直しをしており、状態変化のある場合はその都度見直しをしている。計画書の綴りも整備されており、継続の場合も含め、時系列的に把握できる。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族の同伴が難しい場合、入居者の受診の付き添いをしている。個人的な買い物が必要な場合にも車で同行している。月に1回、水曜日、近くにある法人ブロック本部の複合施設に理髪に外出している。事業所としてのサービスの拡充としてショート(短期利用共同生活介護)の併設も検討中である。		

グループホームぼうやま敬老園

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	毎週火曜日午後、訪問看護師による健康チェックがされ健康観察記録に細かく記入されている。訪問看護師とかかりつけ医との連携体制も確立している。11月に法人のクリニック他で定期健康診断の予定が組まれている。服薬の処方箋のファイルもあり、職員は内容を確認している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	法人としての「看取りの方針」が作成されており、家族、医師、訪問看護師、職員等、関係者で話し合い、検討されている。ターミナルケアについての同意書も家族と交わされている。本年度に入ってから一例あり、家族と相談しながら直前までホームでお世話することができた。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	法人の三つの理念の一番目に「人間の尊厳を大切にし、・・・」と謳われており、職員の言葉かけや接し方は入居者の誇りやプライバシーに配慮しながらも、ごく普通のさりげないものであった。個人情報の取り扱いについてもホームから入居時に説明がされており同意書も頂いている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員は話題の投げかけを通して入居者のその日の意向を把握するようにしている。天候を見ながら、希望者数名が法人の地域本部のある近くの複合施設への朝のごみ出しを兼ねた散歩やホームの日用品の車での買い出しなどに外出している。		

グループホームぼうやま敬老園

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の献立は法人本部の栄養士が立てている。メニューによってはホームで調理できないこともあり、ホーム独自にアレンジすることもある。一人ひとりの状態に合わせミキサー食等食べやすい形に工夫している。訪問日には近所の方からいただいたカボチャの煮物が食卓に上り、ひとしきりの話題となっていた。職員も同じテーブルで介助の必要な方の側に座り一緒に食べている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は基本的には週2回行っている。それ以外の対応については特に、夏場、清拭等で対応している。入浴を拒む入居者はいない。週2日、重度者の入浴日となつていますが、器械浴でなく、時には訪問看護師の協力も得ながら職員2人で手厚く、安全に支援をしている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	日々の生活の中にレクリエーション、体操等、刺激となるような楽しみごとが組み込まれている。誕生日会も行われており、職員手作りのお祝いのカードが手渡されている。できる入居者には洗濯物干し・たたみ、食事の盛り付け、食器ふき等、ふだんの生活の中に一人ひとりの役割がある。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	月に1回、水曜日、法人のブロック本部の複合施設に理髪のために外出したり、外食、散歩、野菜づくりなどで戸外に出ている。法人のデイサービスの部署より車を借り、つつじやバラの見物など、近隣の名所旧跡へ年2回程遠出することもある。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵をかけることの弊害を職員は理解している。街中にあるホームのため、周りは交通量が激しく、リスクを回避するためにやむを得ず鍵をかけることがある。入居者が不穏な状態の時にも鍵をかけることがあるが、通常は夜間以外施錠はしていない。		

グループホームぼうやま敬老園

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけしている	地区の自治会の協力を得ながら、年2回入居者とともに非難訓練を行っている。避難場所には地区の公民館が充てられている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者一人ひとりの食事量、水分摂取量は把握されている。記録にも残されており、職員は情報として共有している。食事の献立は法人本部の栄養士が立てており、一日のカロリー計算は十分されている。普通の食事が食べられない入居者には刻み食、ミキサー食など個別での食の支援がされている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関を入ると以前入居されていた方が描いた大きな油絵が眼に入る。ホームは旧医院を改修したものでアコーディオンカーテンで仕切るなど狭い空間を有効利用できるように工夫がされている。入居者の憩いの場となっている居間兼食堂は南面がガラスの引き戸で、初秋の明るい日差しが入りこんでいた。秋明菊が咲いた和風の庭には季節を感じさせる樹木・草花が植えられている。廊下のボードには遠出や外食時のスナップ写真、ビーズの作品、塗り絵などが掲示されており、ほのぼのと和らいだ雰囲気が感じられた。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室にはタンス、テレビ、机、椅子、本、辞書、虫眼鏡など使い慣れたものが持ち込まれていた。入居者や職員の手作りによる誕生日祝いのカードが数枚大切にはられている居室もある。各居室にはエアコンが備え付けられており住環境面でも配慮がされている。		

※  は、重点項目。